

英語・日本語・中国語の関係節の比較に関する覚え書き*

佐々木 一 隆

はじめに

本論文の目的は、英語と日本語と中国語の関係節について、言語類型論に留意しながら統語・意味・音韻の観点から比較を行い、覚え書きとすることである。早速、具体例を見ることにしよう。次の(1)-(3)はそれぞれ英語・日本語・中国語の例で、[]は関係節を、下線部は関係節によって修飾される主要部名詞を表しており、細部の違いを除けば「これは私がきのう益子で買った湯呑みである」という共通の意味を表している。

(1) This is the cup [that I bought at Mashiko yesterday].

(2) これは [私がきのう益子で買った] 湯呑み です。

(3) 这是 [我昨天在益子买的] 水杯。

これら3言語の比較から分かるように、英語の関係節は主要部名詞を後ろから修飾するのに対し、日本語と中国語の関係節はそれぞれ主要部名詞を前から修飾する点で統語的に差がある。意味的には3言語とも関係節が主要部名詞の指示対象を限定しているのが普通であり、音韻的には3言語とも限定修飾の場合に関係節と主要部名詞の間に音声上の休止がないという点で差が見られないと言える。また、言語類型論の観点から英語と中国語の基本語順はSVOに、日本語の場合はSOVに分類されることを考え合わせると、中国語は英語と日本語の間のどこかに位置づけられると考えることができる。

以下、本論文では英語・日本語・中国語の関係節について、第1節では統語の観点から、第2節では意味の観点から、第3節では音韻の観点から比較考察していく。最後に第4節では言語類型論の立場から3言語における関係節の比較内容をまとめる。

1. 統語の観点：分布と内部構造

この節では、英語と日本語と中国語の関係節を統語的に比較考察する。順序としては関係節の統語的な分布をまず確認し、そのあと内部構造の特徴を見ていく。先に提示した例文を改めて(4)-(6)として示し、(6)の中国語の例にはそれぞれの語

の下に対応する英語の訳をつけると次のようになる。

(4) This is the cup [that I bought at Mashiko yesterday].

(5) これは [(私が)きのう益子で買った]湯呑みです。

(6) 这是 [我 昨天 在 益子 买的]水杯。

This is [I yesterday at Mashiko bought that] cup

上述したように、言語類型論の観点から見ると英語と中国語の基本語順は SVO (SVC) に、日本語の基本語順は SOV (SCV) に分類されるが、関係節と主要部名詞の位置関係では区分が異なり、英語の関係節は主要部名詞の後に置かれるが、日本語と中国語の関係節は主要部名詞の前に置かれる。日本語と英語は基本語順と関係節が生起する位置の二点で対立関係にある一方で、中国語は基本語順の点で英語と同じであり、関係節の生起位置の点で日本語と同じである。このように中国語の統語的分布には両面性があり、言語類型論の見地から興味深い。

次に関係節の内部構造に移ることにする。まず、主語の義務性について見ると、英語と中国語では主語の「I」と「我」をそれぞれ省略できないが、日本語では主語の「私が」を省略することができる。日本語では主語の「私」は強調や対比などの特別な理由がない限り、表現しない方が普通である。

動詞の時制については、英語と日本語にはそれぞれ過去時制（すなわち、(4)では *bought*、(5)では「買った」）があるが、中国語にはそのような動詞の形態的変化としての時制がなく、(6)の動詞「买」は一定不変であるため、副詞の「昨天」と「的」と組み合わされて「過去」を表している。

関係節内での語順については、日本語と中国語の間に多くの共通点が見られる。すなわち、両言語とも関係節内では概略「主語+時の副詞+場所の副詞類+動詞」の語順を示しているということである。一方、英語では概略「主語+動詞+場所の副詞類+時の副詞」という語順をとり、日本語や中国語とは対照的である。なお、生成文法で仮定されている痕跡の概念を援用すれば、英語と中国語では動詞の補部としての「痕跡」が動詞の後に現れ、日本語では動詞の前に現れる。すなわち、英語では「...*bought* t...」、中国語では「... 买 t...」という語順が仮定されるが、日本語では「...t 買った...」という語順が仮定され、英語と中国語が主要部先頭型 ([_{VP}V...]) であるのに対して、日本語が主要部末端型 ([_{VP}...V]) であるという言語類型論上の対比が見られる。換言すれば、VO と OV の対比があるという

ことである。また、場所の副詞類にも同様の対比が見られ、英語の *at Mashiko* と中国語の「在益子」は前置詞句で、前置詞の *at* と「在」がそれぞれ主要部として句の先頭に現れているのに対して、日本語の「益子で」は後置詞句で、後置詞の「で」が主要部として句の末端に現れている。

最後に関係詞の義務性について触れることにする。(4)の英語では *that* が、(6)の中国語では「的」が関係詞であり、英語の *that* はこの環境では省略することができるが、中国語の「的」は義務的で省略することができない。これに対して、(5)の日本語の例には関係詞が現れていない。強いて言えば「(～する) ところの」のような表現が関係詞と言えないこともなく、それを(5)の関係節内の「買った」の直後に挿入して「買ったところの」として主要部名詞「参拝」につなげることもできるが、一般に日本語では、関係節と主要部名詞をつなぐ働きをする関係詞は通常用いられない。

2. 意味の観点

Smits (1989: 105) によれば、関係節化には制限的關係節化と同格的關係節化の2種類があり、(7)は制限的關係節の例であり、(8)は同格的關係節の例である。同格的關係節は非制限的關係節とも呼ばれる。

(7) All drivers who hit children should be hanged.

(8) All drivers, who hit children, should be hanged.

制限的關係節では、(7)が示すように關係節の *who hit children* が先行詞 *drivers* の指示対象を限定し、この先行詞 *drivers* に *All* が適用されて「子どもたちを車ではねたドライバーは全員絞首刑にすべきである」という意味になる。これに対して非制限的關係節では、(8)が示すように關係節の *who hit children* が先行詞 *All drivers* に対して付加的な情報を与えており、「ドライバーは全員、子どもたちを車ではねた場合には絞首刑にすべきである」という意味になる。

日本語と中国語にも制限的關係節と非制限的關係節があるが、英語とは異なり、表記上や後述する音韻上の点で差が見られない。まず、日本語の關係節構造の例として(9)を見ることにしよう。

(9) [憲法に違反する形の]参拝には問題がある。(大津 2004: 70)

大津 (2004: 70) によれば、この例には二通りの解釈があり、一つは「(靖国) 参

拝は憲法に違反する形のものとしてでない形のものがあるが、そのうちの前者」という制限的な解釈で、もう一つは「(靖国) 参拝はいかなる形のものであっても憲法に違反する」という非制限的な解釈である。なお、大津(2004)には説明がないが、「憲法に違反する形の」における「形の」を「(～する) ところの」と同様にある種の関係詞と見なすこともできると筆者は考えている。また、仮に関係詞の一種と見なされる「形の」を省略しても、「[憲法に違反する]参拝」が可能であり、その場合の[憲法に違反する]は関係節で、依然として制限と非制限の二通りの解釈がある。

日本語の(9)に対応する、(10)のような中国語の関係節構造にも制限的な解釈と非制限的な解釈がある。

(10) [違反憲法形式的] 参拝・・・

興味深いことに、この例においても(日本語の「形の」に相当する)「形式」を省略することができる。

なお、(10)の中国語において好まれる関係節の解釈は制限的解釈のほうであり、同じことは(9)の日本語にも当てはまる。

3. 音韻の観点

意味のところでも少し触れたが、英語では制限的關係節と非制限的關係節の対比が音韻の違いとなって現れる。すなわち、非制限的關係節の場合には主要部名詞と関係節の間に休止があり、関係節は主要部名詞を含む主節から独立した音調をもっているが、制限的な場合にはそうした特徴が見られない。これに対して日本語や中国語では二種類の関係節構造に音韻的な差が見られないため、制限的解釈か否かの判断は音声では決まらず、文脈が必要となる。

4. 言語類型論と関係節比較のまとめ

本論文では、英語と日本語と中国語の関係節を対象として、言語類型論に留意しながら統語・意味・音韻の観点から比較を行ってきた。その結果を表にまとめると以下ようになる。下の表1が示すように、基本語順の点では英語と中国語はSVOに分類され、日本語はSOVに分類される。また表2が示すように、英語と中国語は前置詞が用いられるが、日本語では後置詞が用いられる。日本語に注目す

れば、基本語順が SOV でかつ後置詞をもつという特徴から、日本語は、Greenberg (1963) が提案した含意的普遍性の一つである「SOV という語順をもつならば、偶然以上の頻度で後置詞が存在する」という普遍的特性に合致する言語であると言える。この点において、英語と中国語は日本語の裏返しの特徴をもつと見なすことができるかもしれない。

	SVO	SOV
英語	○	
日本語		○
中国語	○	

表 1 基本語順

	前置詞	後置詞
英語	○	
日本語		○
中国語	○	

表 2 前置詞か後置詞か

しかしながら、表 3 が示しているように、関係節の生じる位置に着目すると、英語は主要部名詞の後に来るが、日本語と中国語は主要部名詞の前に来るという対比が見られ、これは表 1 と表 2 における言語類型論上の一般化が単純には成り立たないことを示している。併せて、中国語が英語と日本語の特徴を一部ずつ持ち合わせていることも分かる。

	関係節：主要部名詞の前	関係節：主要部名詞の後
英語		○
日本語	○	
中国語	○	

表 3 関係節の位置：主要部名詞の前か後か

最後に、中国語がもつ上述のような両面性を示す別の例を Shopen, ed. (2007: 72) 第 2 章 (Word order [Matthew S. Dryer 執筆]) から引用して、本稿を終えることに

する。

(11) Zhāngsān	bǐ	tā	pàng	[张三 比 她 (他) 胖。]
Zhangsan	COMPAR	3SG	fat	
	M	St	Adj	

‘Zhangsan is fatter than her/him’ [「張三は彼女（彼）よりも太っている」]

(11) は比較を表す標準中国語の文であり、bǐ tā（比較の符号+比較の対象）が、例えば英語の *than her* または *than him* に相当する点で主要部が句の先頭に来る VO 言語の特徴を示している一方で、tā pàng（比較の対象+形容詞）が、例えば日本語の「彼女より（あるいは彼より）太っている」に相当する点で主要部が句の末端に来る OV 言語の特徴をもっている。

* 本稿を執筆するにあたり、中国語の例文およびそれに関連する情報については、国際学研究科博士前期課程の翟普光氏と范喜春氏、博士後期課程の方小贇氏よりご提供いただきました。また、中国語話者の学部研究生の方々からも同様の情報をいただきました。ここに感謝の意を表する次第です。

引用文献

Greenberg, Joseph H. (1963) “Some universals of grammar with particular reference to the order of meaningful elements.” In *Universals of Language*, ed. Joseph H. Greenberg, 58-90. The MIT Press.

大津由紀雄編著（2004）『小学校で英語教育は必要か』慶應義塾大学出版会

Shopen, Timothy, ed. (2007) *Language Typology and Syntactic Description*. Volume I: Clause Structure. Second Edition. Cambridge University Press.

Smits, R.J.C. (1989) *Eurogrammar: The Relative and Cleft Constructions of the Germanic and Romance Languages*. Foris Publications.